

朝鮮独立運動100周年
日韓聖公会公式交流35年を迎えるにあたって

今・和解と協働のために…

1919年2月8日
東京・朝鮮人留学生独立宣言(東京朝鮮YMCA)

1919年3月1日
朝鮮31独立運動

2.8 独立宣言 100 周年記念 日韓聖公会合同礼拝

日時：2019年2月9日(土) 10:30~12:00

場所：日本聖公会東京教区 目白聖公会

記念礼拝、記録映画「2.8 独立宣言」鑑賞、茶話会など

1919▶2019

日本聖公会 日韓協働委員会



〒161-0033
新宿区下落合 3-19-4

JR山手線「目白駅」から徒歩約5分。
改札口を出たら信号を渡って左手、
目白通り沿いに進む。

都バス(白61・池65系統)
下落合3丁目バス停から徒歩1分。

日本聖公会に連なるみなさまへ

日韓聖公会が公式に交流を始めてから 35 年目となる 2019 年は、2.8 独立宣言・3.1 独立宣言から 100 年を記念する年にあたります。そこで、大韓聖公会と日本聖公会の協働委員会では、更なる日韓の和解と平和実現のための協働を深めるために、日本と韓国で記念の合同礼拝を行うことを計画致しました。

日本での合同礼拝は、2019年2月9日(土)に、目白聖公会で行います。なぜ目白聖公会かと申しますと、同教会の「目白教報」によれば、「1930年(昭和5年)奉仕的事業として、在京朝鮮聖公会信徒の司牧援助のため、朝鮮聖公会から趙(チョウ)ヨンホ副補祭を受け入れ、5月8日に、初の朝鮮語礼拝が行われ、この働きは趙師の帰国によって終了するまで、約1年続いた」という記録があるからです。

2.8 宣言書は、人権宣言として大変格調高く、3.1 独立宣言書のみならず、その後も世界の各地で権力の抑圧や弾圧に苦しむ人々の独立運動に大きな影響を与えました。一人でも多くの方々がご参集下さり、100 年前に思いを馳せ、宣言書を味わい、共に祈りをささげたいと存じます。主の導きを祈りつつ。

2018年12月 日韓協働委員会 委員長 主教 磯 晴久

【2.8 独立宣言】

1910年8月28日、韓国併合条約により朝鮮は日本の植民地になりました。そして1945年8月15日、日本の敗戦までの36年間の植民地支配が続きます。

植民地を前後して朝鮮から多くの留学生が日本に学びにやってきました。

1918年、第1次世界大戦後アメリカ大統領のウイルソンは民族自決主義を唱えられるなど、植民地の人々は独立への思いを高めました。

1919年2月8日、在日本東京朝鮮 YMCA(現在の在日本韓国 YMCA)に集まった数百名の朝鮮からの留学生は日本語と英語に訳された独立宣言文、決議文を採択し日本の議会、各国大使、言論機関等に送付しました。「集会では独立団代表 11 名の署名入り独立宣言文が満場一致で採択されました。しかし警察官たちが乱入し、検挙が始まり、宣言署名者のうち、朝鮮 本土に向かった 2 名を除く 9 名が逮捕されました。その後も、東京、大阪などで 第二、第三の運動が継続されました。この「事件」は、日本国内はもちろん、海外でも報道され大きな波紋を呼びました。また宣言文はソウルにも伝えられ、3.1 独立運動を引き起こす導火線となりました。この時、朝鮮からの留学生の弁護を行った布施辰治弁護士や吉野作造、内村鑑三などが留学生、東京朝鮮 YMCA と共に歩み平和と人権を希求した人々が民族を越えて結ばれていたことは覚えておきたいと思います。

「朝鮮独立運動 100 周年 記念パンフレット」(日韓協働委員会編集)より



2.8 独立宣言が発表された
東京朝鮮 YMCA (1919 年当時)

「朝鮮独立運動 100 周年 記念パンフレット」(日韓協働委員会編集)は、
管区事務所ホームページ「資料」の欄からダウンロードできます。→

